私と囲碁「一碁一会」

浅川同好会会長　三島敏明

私が八王子に来て早や 6 年になります。毎週の例会の他、活き活き大会、研修部、子ども教室などに参画し、充実した囲碁ライフを満喫しています。

私と囲碁との出会いは、26 歳の頃と遅い方でした。名古屋勤務の時叔父から手ほどきを受け、その後いくつかの碁会所で研鑽を積みました。そうした中、高中国流の布石で有名なプロ棋士に指導碁を受け、ほとんどの石が取られる（実際は手心により取られなかったが）という衝撃的な洗礼を受けました。私にとって囲碁の摩訶不思議さ、玄妙さ、奥深さを知るきっかけでした。以来、あちこち転勤する中で囲碁とつかず離れず､暇が出来れば碁会所へ通うというごく普通の日々を送りました。

40 代に再び東京に転勤し、40 代後半になり本格的に囲碁に傾注しました。近くの碁会所に通い続け 1 日 5～6 局、月に 50~60 局打つほど熱中しました。この碁会所は強い人が多くたくさんの碁友・碁敵が出来、ここの 10 数年は私の棋力が最も向上した時期でした。そして前々年の 16 市対抗戦で久しぶりに当時の碁友に再会し、懐かしい思いで挨拶を交しました。まさに「一碁一会」でした。現役リタイア後は九州の故郷に帰りましたが、ここでも多くの碁友に出会い親交を深めました。

囲碁は、私にとって多くの碁友との出会いをもたらしてくれる「人生の伴侶」とも言えます。この素晴らしい知的ゲームが永続できるよう八王子の囲碁環境を維持し、さらに発展できるその一助が出来ればと思っています。　　(2020 年 7 月)